

# 罪は許せない でも治療受けて

卑劣な性犯罪は、ほかの犯罪に比べて再犯率が高いとされる。「依存症」が理由とみて、治療で防止しようとの動きが出てきた。

昨年12月25日、横浜地裁が元中学校長(65)に懲役2年、執行猶予4年の判決を言い渡した。

この男は27年間にわたり、フィリピンで1万2千人以上の女性を買春していたという。

これほどではないにせよ、性犯罪を繰り返してしまう人は少なくない。

関東地方に住む50代前半の男性タカアキさん(仮名)は、思春期のころから「年下をもてあそびたい」という気持ちを抑え

られず、身内や見知らぬ人にわいせつ行為や痴漢を繰り返してきた。成人してからは、児童買春のために海外に出かけたこともある。

## 「やめて」の声で 我に返って自首

「自分はおかしいのではないか」長年苦しんだ末に精神科へ行き、性の問題を訴えたが、診断

はアルコール依存症のみだった。

かといって、長年依存してきた小児性愛から自分で抜け出すこともできなかつた。性の問題を

含めた自分の人生が誰にも理解されない孤立感からヤケになり、ロープとカッターナイフをかね

んに忍ばせ、遊んでいた子どもに声をかけた。そのまま個室に連れ込み、子どものズボンを下

ろそうとしたとき、「やめて」と声を上げられ、我に返った。「このままでは、次は子どもを

殺してしまうかもしれない」交番に自首し、ほどなく逮捕された。

犯罪までいなくても、止められない性衝動に悩む人がいる。中部圏在住のサトシさん(仮名、40代後半)の場合、風俗店通いがそれだった。

生活が一変したのは、宗教関係の職を継ぐことになった15年ほど前。うつ病を発症し、ストレスを解消するために休もうとしたが、急な仕事が入ってダメになった。そのとき自分が奴隷

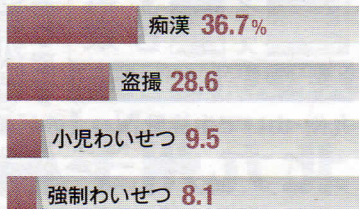
のように思えてしまい、信者から受け取った浄財を持ってファッションヘルスへ行った。風俗嬢のぬくもりに、経験したことのない「癒やし」の快感を得た。「あれで自分の中のスイッチが入ってしまった」

昼の行事が終わると往復4時間道のりを運転し、風俗店に通う日々が始まった。プレー後に襲う寂しさを打ち消すために、また別の店に通う。多いときは10時間に5店をはしこした。

浄財だけでは足りず、消費者金融にまで頼って借金が膨らんだ。それでも断ち切れない時期が1年半ほど続いた。

小児性愛、のぞき、痴漢、盗撮、露出、強姦など、特定の性

## 有罪判決から5年以内の 性犯罪再犯の割合



犯罪白書(2015年版)から

的な行動を過剰に繰り返してしまふ症状は「性依存症」と呼ばれ、国際的な診断基準もある。

性依存症を診る精神科医の福井裕輝氏によると、「自分がやめたいと思っても、それができなければ依存症と診断される」。女子高生の制服などを盗み、昨年未逮捕されたお笑い芸人(44)は、性的欲求を満たすために同様の盗みを繰り返したとい、自宅から約600点が押収された。これも性依存症が疑われるケースだ。

## 依存の裏に不安 思い込みも強く

原因は心の問題、とソーシャルワーカーの吉岡隆氏が言う。

「不安や寂しさ、怒りなど、その人が強く心に抱えるものがあると依存症になりやすい。依存には否定的な感情を鎮静、麻痺させる効果があるからだ。しかし、それを続けていると、その先には死が待っている」

遺伝や脳機能障害の可能性も



